

心込めて一葉、一葉

京田辺「さんさん山城」

入札価格過去最高も励みに

気温上昇！生育に期待寄せて

見ても 自家園で茶摘み

京田辺市興戸の田辺警察署隣りにある障害者就労支援事業所・農福連携センター「さんさん山城」(新免施設長、藤永管理)で今シーズンの茶摘みが始まった。地元特産でオリシナル加工品の主力を担う抹茶原料のてん茶を主に、利用者もスタッフ、ボランティアが丁寧に新芽を摘む。異例の早さで梅雨入りした地元では1時間おきに目まぐるしく変化する空模様とにらめっこしながらの手作業が続く。霜害を受け、トータル収穫量を気に掛けながら、温暖な気候での茶葉の勢いある生育に期待が集まる。

聴覚障害を持つ人の城。木津川玉水橋の上流約1kmの沿岸には2011年4月に開設された社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会運営の就労継続支援B型山城就労支援事業所である農福連携センター「さんさん山城」。

藤永管理による知識と技術を積み上げていった。今年4月目、途中に休みを挟み、生育具合と空模様を眺めながら作業を進めている」と現況に触れ、「先に出した分

い、気温が上がってつながらの生育に目を向ける。金・土曜と暑くなり、ぐんぐん上昇。この3、4日で芽が出てきた」と光明を見出す。新免施設長は「昨年も含め、この数年、収穫は少なめ。心配している。今年は4月目、途中に休みを挟み、生育具合と空模様を眺めながら作業を進めている」と現況に触れ、「先に出した分

で、さんさん史上、過去最高の入札があった」と声を強める姿も見られた。

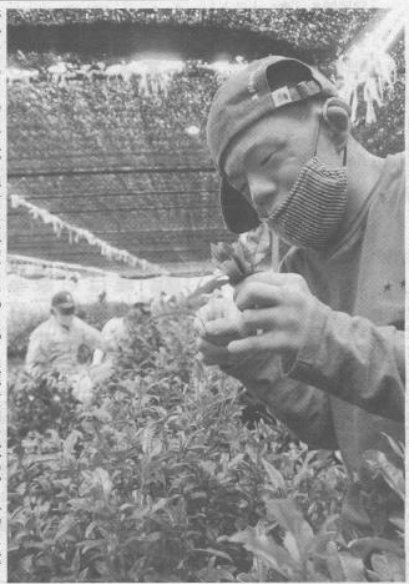
よみうりテレビの取材も入ったこの日は約30人が手摘みに精を出し、時折覆いの下を風がそよぐ中、摘み取った茶葉をそれぞれカゴ

に収めていった。品種は、今季に初めて覆ったというさみどりから(こ)へ、覆いの下で、てん茶の手摘みが進められている。加工用を含むてん茶は例年、生葉で約400kgを収穫するが、低減傾向という。毎夕、

間を置かず工場に送り届ける。単一品種を採るに上上げる煎茶も人気となっている。

新免施設長は「今週は作業を休み、また来週初めから」と茶葉の生育に期待を寄せる。

緊急事態宣言が続くコロナ感染予防のため、ボランティア参加の呼び掛けを広げず、土・日曜も常連ボランティアを合わせた馴染みの顔触れが爽やかな汗を流す。



緑がまばゆい生命力あふれる芽を愛しに



覆い下茶園でフレッシュな茶葉を広げる「さんさん」のメンバー



アドバイスし合いながら丁寧に茶葉を摘んでいく利用者ら



覆いが掛かった自家茶園で手摘みしていく利用者、スタッフたち



テレビインタビューに答える藤永管理者

さんさん2年目で茶摘みも2回目という利用者の樋口結香さん(32)「京田辺市は近鉄徒歩約15分。問い合わせは同施設☎39-7113まで。」

お悔やみ
申し上げます

福田 保子さん
55歳。宇治田原町南下中道。4月14日死去。

谷口ミチエさん
93歳。宇治田原町興山田宮境内。4月16日死去。

石のこたなら
☎074-322995

完全予約制
遥 法要会館
四十九日法要・年忌・お食事にご利用頂けます
京田辺 ☎63-0009

自宅葬・寺葬・社葬・家族葬
セレモニー 遥
京田辺 ☎63-0009
城陽 ☎55-0009
宇治田原 ☎99-7799
総合式場完備 24時間体制